学位論文要旨

学位論文題目　熟議を利用した新語形成プロセスに関する研究

申請者氏名　黒﨑　貴史

新語の形成プロセスに関する研究は，語形成論において多くの研究者によって行われている。その多くは，形成方法の類型化など，語の形式的な問題を扱うことが主であった。社会と密接な関わりを持つ新語を研究対象として扱うのであれば，新語だけを形式的に観察するだけでは不十分だろう。

本稿の目的は，新語形成に関わる人間（参加者）が，どのような言語行動を取りながら，どのようなプロセスを辿って，新語形成を実行していくのか，という問題を解明することにある。対象は，大学生と小学生である。そのための方法論として，「熟議」という言語実験を選んだ。本稿における熟議とは，「複数の参加者が，テーマに即した新語を形成するために熟慮・議論すること」と定義する。また，本稿において，新語を「熟議の参加者達がテーマとなっている事象を言い表すために形成した語，あるいは，意味を変容させた語」と定義し，提示された新語が既に存在していても参加者たちが知らなかった場合，新語としている。新語が形成されるプロセスやそれを観察する方法には多様なものがあると考えられるが，本稿では，新語形成プロセスを「新語が形成される場として「熟議」空間が存在し，その中で複数の参加者の熟議を通して新語が作り出されていく」ものと設定する。そして，参加者の言語行動を観察することによって，新語形成のダイナミズムを観察できるようになると考える。

5章では，形態論の観点から形成された新語の語構成に着目し，熟議中の変遷について考察する。本稿では，複合語を複合語語彙論の観点から分析を行った。その結果，同じ構成要素を持ち，特定箇所の構成項が接辞化する例が見られた。前項が接辞化するものを「接頭辞派生型」，後項が接辞化するものを「接尾辞派生型」，前項と後項が接辞化し，その間に新たな構成要素を加えるものを「入れ子派生型」とした。接辞として残る語はテーマとの関わりが強く，残すことによって参加者達が認定していることを表しているのではないかという仮説を立てた。

6章では，言語行動，談話論の観点から分析を行っている。言語行動の観点から「表態」と「新語形成フェーズ」という単位を設け，熟議の構造を把握した。表態とは，「主体者の認識や意思が表出されている音声言語と行動の一まとまりのことで，他の人物の音声言語や行動が 新たに現れることで区切られる」と定義する。新語形成談話（熟議）における最小の単位で，従来の談話単位である発話と異なり，笑いや頷きなどの言語行動も独立した単位とみなす。表態の一まとまりで，新語形成の作業工程を表す単位として新語形成フェーズを設定している。

大学生と小学生では新語形成フェーズの現れ方に違いがあり，熟議の構造が異なる。この違いについて，同時発話の観点から述べる。大学生は「認知→枠組み→提案→審議」というプロセスを辿っている。熟議の様子を見ると，同時発話の頻度が少なく，同時発話が起きても発話権の移行が行われる。これは，相手へ配慮して，重ねた側あるいは重ねられた側が発話を取りやめたものと考えられる。これに対し，小学生は同時発話が多く，発話権の移行がなかなか行われず長い間同時発話が起こった。これは，小学生は大学生に比べ，自己主張を重視し相手への配慮が薄いためだと考えられる。そのため，小学生の熟議は提案や審議といった「自らの主張を述べる」フェーズが非常に多く現れていた。

また，両者ともに，新語形成フェーズの切り替えの際に停滞の言語行動が現れた。これは，停滞が「新語形成談話の行き詰まりを表す言語行動」であると同時に，「新語形成談話を発展させる言語行動」を意味する。また，停滞の出現には一定のリズムがあり，談話にも我々が心地良いと感じるリズムがあるのではないかという仮説を立てた。

7 章では，廃語プロセスについて考察する。熟議における新語の消去に着目することで，逆説的に残っていく新語を確認することができるのではないかと考えたためである。本稿では，「借用」，「陳腐化」，「語の転倒」による新語の消去が確認できた。借用とは，参加者が非母語化の言語行動によって，それ以前に形成した新語を消去することである。陳腐化とは，「なんとなく」といった感覚的な理由で新語を消去することである。語の転倒とは，並び替えによって既成の複合語の構成要素を入れ替え，元となる新語との比較を行い，どちらかを消去することである。これらは，実際の言語社会の中と同様，熟議空間の中においても観察できたことを意味する。

本稿での言語実験方法を用いることによって，実際の言語社会と熟議空間を間で比較できるだけでなく，言語社会では現時点で観察されていない言語現象を，熟議空間では予測できるかもしれない。この予測性に関しても，本稿の言語実験方法の妥当性を強めるものではないだろうか。

（様式９）

学位論文審査の概要と結果

報告番号	東アジア博 甲 第 116 号	氏　名	黒﨑　貴史
論文題目	熟議を利用した新語形成プロセスに関する研究		

（論文審査概要）

本論文の目的は，新語形成に関わる人間（参加者）が，どのような言語行動を取りながら，どのようなプロセスを辿って，新語を形成していくかという問題を解明することにある。

本論文の構成は，以下の通りである。まず「1. はじめに」では，研究に至った経緯，目的について述べられている。「2. 先行研究について」では，新語形成に関する記述的・理論的な先行研究を参照している。語形成，新語形成プロセスに関する理論的な研究，新語・流行語，廃語に関する記述的な研究，そして談話に関する研究が多方面から取り上げられている。「3. 本稿の立場」では，言語実験方法である「熟議」の定義がなされている。また，「新語」「新語形成プロセス」のほか，本論文で使用する談話単位である「表態」についての規定も記述されている。さらに，本論文での立場として，新語を形成する人間（熟議の参加者）の言語行動（認知行動）にも焦点を当てるという点を強調している。「4. 言語実験方法」では，熟議を使用した言語実験の方法について記している。この言語実験は大学生と小学生を対象に行われている。

次の第 5～7 章が分析である。まず「5. 新語形成の形態パターン」では，形成された新語の語構成に注目し，その形態パターンを記述している。ここでは，「接頭辞派生型」「接尾辞派生型」「入れ子派生型」という 3 つのパターンに分類している。次に「6. 新語形成談話の言語行動と新語形成フェーズ」は，新語形成談話に現れる参加者の言語行動，及び「新語形成フェーズ」に関する節から構成されている。前者では，「与え手の言語行動」「受け手の言語行動」「共同の言語行動」に分類し，具体的な記述がなされている。その結果，与え手の言語行動としては「複合」「オノマトペ化」「字形の選択」などが，受け手の言語行動としては「賛成」「拒否」が，共同の言語行動としては「停滞」がそれぞれ設定できている。後者では，新語形成にあたり参加者全体が行う言語行動を新語形成フェーズとして捉え，詳細な記述を加えている。最終的に，大学生では「認知→枠組み→提案→審議」という流れになるのに対し，小学生では「提案→審議」を反復しているのが観察された。この相違は発話権の取得の違いにも関係していることが判明している。さらに，ここでは「停滞」についても議論され，談話の流れには停滞によるリズムが存在しているのではないかという仮説を提示している。「7. 熟議空間における廃語プロセス」では，熟議という実験的な環境で生じた結果が，実際の言語社会の中にも観察できるかどうかについて検証している。ここでは「廃語」プロセスを対象としている。先行研究では，言語社会の中で新語が廃れる現象として「借用」「陳腐化」「語の転倒」が挙げられているが，熟議にも同様の現象が観察されている。このことは，熟議という言語実験の妥当性を検証することにもなる。

「8. まとめ」は全体の総括である。「9. 問題点・今後の課題」では，様々な問題が残されているが，特に言語実験で起こる言語現象は実際の言語社会で起こる言語現象と同じであるのかという問題は重要な課題として提示されている。「10. おわりに」では，発話の心理的な問題についてもコメントされている。

以上を踏まえたうえで，次の 4 点から審査概要を述べる。

１．創造性

従来の研究には見られない「熟議」という言語実験を利用していること，新語形成を言語行動の面から分析していること，新たな概念，仮説を提示していることは，創造性・新規性の点において極めて優れている。また，形態論や談話研究など当該研究テーマあるいは関連研究分野への貢献が明確である。

2．論理性
適正な論証手続きに基づいて仮説を検証するなど，一貫性のある展開から結論が導かれている点は極めて優れている。

3．厳格性
先行研究が十分に渉猟咀嚼されている。さらに，熟議という斬新な言語実験を実施するため，非常に緻密に方法論を検討し，厳格に用いられている点は極めて優れている。

4．発展性
「言語実験で得られた言語現象が実際の言語社会でも起こっているかどうか」「実際の言語社会における新語形成では熟議が行われているのか」といった問題の検証については，やや弱い点もある。しかし，将来大きく発展する可能性のある論点や研究枠組み・視角・方法等が萌芽的に提示されている点は極めて優れている。

以上，審査委員会における審査委員の合議によって，全員一致で学位論文の水準を十分満たすと判断し，論文審査結果を「合」とする。

論文審査結果
合・否

審査委員　（氏名）有元光彦

（氏名）村上孝造

（氏名）吉村誠

（氏名）

（氏名）